

家庭通信 11 月号

2026 年 10 月 30 日
学校法人　織田学園
おだ認定こども園

毎月の家庭通信・献立・保健だより等も HP でご確認いただけます

朝夕の気温が下がり、今週の水曜日に木枯らし一号が発表されました。そろそろ冬支度の季節がやってきます。子どもたちは元気いっぱい外に出て体を動かし、寒さを吹き飛ばす体力と気力が育ち、準備万端です。

11 月 14 日には成長展を予定しています。子どもたちは日々遊びを通して様々なことに興味を持ち、不思議さに気づき、友だちとの協働体験等を繰り返しながら、自分の「好き」や「得意」を発見していきます。

児童精神科医の故・佐々木正美先生は『はじまりは愛着から』という著書の中で、「遊び」について次のように述べています。

「遊びの利点は、自ら選んだ活動に『限界までの努力』ができることであり、将来のために自分の限界を知りながら、次の発達段階を見つめることができる。また、遊びは自分がより何に向いているかという『適格性』を知るための助走である」

子どもの遊びを見ていると、まさにこの言葉通りだと感じる場面によく出会います。

成長展で皆さまに見ていただきたいのは、子どもたちが画一的に育つのではなく、一人ひとりの興味や関心を掘り下げながら、「その子らしさ」が育っている姿です。その成長の過程を、ぜひ感じ取っていただければ幸いです。

当日は有志の保護者の皆さま企画による「おだフェス」（遊びの場）も実施いたします。当日のお手伝いへのご協力も、どうぞよろしくお願いいたします。

11 月のねらい

＜年長＞
- 進んで戸外で遊び、十分に身体を動かしたり、ルールのある遊びの面白さを味わったりする
- 友達と考えや思いを出し合い協力したり、分担したりしながら目的に向かって遊びや生活を進める楽しさを味わう
- 身近な自然の様子や季節の移り変わりに気付き、生活や遊びに取り入れながら、興味関心を深めていく

＜年中＞
- 戸外で伸び伸びと体を動かしながら色々な遊びをやってみようとする。
- 気の合う友達と誘い合い、場を作ったり、遊び方を決めたりして、自分たちなりに遊びを進めようとする
- 色々な友達と関わり、一緒に遊ぶ中で相手にも思いや考えがある事を知り、耳を傾けようとする
- 様々な素材に触れながら、自分たちなりに考えたり、友達と力を合わせて作ったりすることを楽しむ

＜年少＞
- 身の回りのことを丁寧に行おうとする
- 保育者や友達と同じ場で一緒に身体を動かすことを楽しむ
- 色々なものになりきってごっこ遊びを楽しむ
- 素材に触れながら、自分なりに作ったり見立てたりすることを楽しむ
- 保育者や友達に自分の気持ちや思っていることを言葉で伝えようとする

＜2 歳児＞
- 保育者と一緒にイメージしたものを作ってみたり、作ったものを使って遊んでみようとする。
- 保育者の見守りや関わりの中で、自分の話をしたり、周りの話を聞いてみたりする楽しさを感じる

＜1 歳児＞＜0 歳児＞
0.1 歳児は個別のねらいを立てています